



●本年3月20日、ノルウエー領スバルバル諸島で、皆既日食が見られました。私は、(株)道祖神主催の、スピッツベルゲン島、ロングイェールビーンのキャンプ場で、2泊3日のテント泊をして、日食を観測するツアーに参加いたしましたので、ご報告いたします。報告にあたり、今回のツアーのリーダーでもあります(株)道祖神の佐藤哲康氏から多くの写真の提供をいただきましたことを、申し添えます。なお、初めの2日間を割愛して3日目よりご報告いたします。



●前日、まる1日、オスロに滞在して、ゆっくり市内観光を行い、3日目は、いよいよ最終目的地、スピッツベルゲン島、ロングイェールビーンに向かいます。早めにホテルを出て空港で朝食をとりました。



●オスロ空港の、SK6302便のゲートに行くと、ロングイェールビーン・晴れ・
-12°とありました。スバルバル諸島は、メキシコ湾流の支流である、西スピッ
ツベルゲン海流の中に位置する為、北緯78度という緯度から予想されるよりは、は
るかに暖かいとされています。



●オスロから、まっすぐ北へ、2時間55分飛び、ロングイェールビーンにつくと、そこは白一色の世界でした。滑走路のすぐそばまで 真っ白な山肌が迫ります。搭乗機を降りると、冷気を浴びせられたような感触に、思わず首をすくめます。



● 急ぎ足で飛行場の建屋に入ると、そこには大きなシロクマの剥製が出迎えていました。此の建屋の中で、自分で用意してきた、すべての衣類を、身に着けました。



●そして、建屋の外に出ると、世界の都市への距離、を示す標識が、あります。いま来たオスロは、南へ2046kmそして反対の北方向には、北極点まで1309km、とあります。東京は、わずか右方向へ6830kmです。



●下着から、すべて、寒冷地用のものを身に着けていた私は、露出している顔だけが、多少冷気を感じますが、それ以外の部分は、十分耐えられそうです。



● 空港建屋のすぐわきで、GPSは、北緯78度14分49秒 東経15度29分39秒を、示しています。



●我々は、さらに、道祖神で用意してくれた、極地用のダウン上下を着こんで、キャンプ場へと向かいます。荷物は、レンタルした車で、遠回りの道路をピストン輸送し、隊員は、アイスバーンの斜面を、徒歩で、飛行場脇のキャンプ場に、直行します。すでに、キャンプ場には、何貼りかの、先客のテントが、張られていました。



●先にキャンプ場についた隊員が、荷物の番をします。



●荷物が到着すると、休む間もなく、管理棟の近くに、テントを張りました。管理棟には、トイレ・キッチン・シャワーなどが、ありますが、宿泊はできません。道祖神の、佐藤リーダーの指示のもと、モンベルの、雪山用ジュピタードーム4型のテントを、5張り張ります。



●さらに、食堂用の、10人収容の大型テントを、その脇に張りました。
今回の遠征隊では、隊員11人の、防寒用アウター上下、モンベルの雪山用ジュピ
タードーム4型の、テント5張りと、食堂としても使う、10人収容の大型テント、 -30°C
でも使えるシュラフと、厚手のエアーマット、等々 これらを、大型バック4ヶに詰め
込んで、日本から持ち込んだのです。



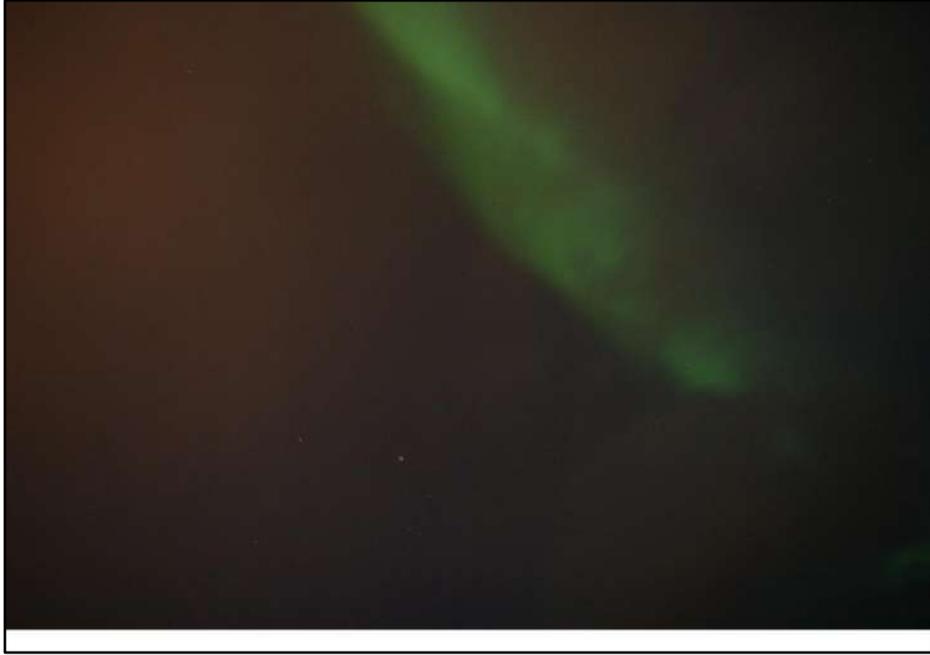
●宿泊用の、ジュピタードーム4型は、本来4人用のテントですが、これを2人で使いました。



●したがって、荷物を入れても、大変ゆったりとしていて、**狭さ**は全く感じませんでした。



●キャンプ1日目の夕食は、佐藤リーダーの料理する、和風のカレーです。疲れ切った体と、すでに、お米に飢えていた隊員達には、たまらなく美味で、お変わり続出でした。



●夜更けに、「オーロラが見えまあーす！」の声に、テントの外に出てみると、南東から天頂を通り、北西方向へ、緑色の帯が見えました。空港の明かりが、うす雲に当たり、赤茶色のモヤが邪魔をして、あまり綺麗ではありませんが、確かにオーロラです。



●あらかじめ、撮影条件は確認しておきましたので、カメラのISO感度を上げて、数十秒の露光を繰り返し、何枚か撮影しました。その晩、テントの内側に触れると、パラパラと、白い雪のようなものが舞い落ちる、冷気の中で、用意されたマットと-30℃対応のシュラフで、快適に眠ることができました。



●よく朝、「幻日が見える！」の声に、みんながテントから出てみると、太陽の左、22度の位置に、確かにまぶしい、もう一つの太陽と虹が見えました。さすがに極地、朝の、空中に漂う氷の結晶と、低い太陽の織り成す芸術を、見ることができました。



●朝食後、キャンプ場近くに設定した、観測地の下見に、徒歩で行きます。場所は、キャンプ地から、200メートルほど東に行った、氷原の一角です。



●私たちは、この辺に陣取ろうということで、一応、ロープで、南北線を兼ねた囲いを作っております。
後方には、フィヨルドの、凍り付いた海を挟んで、数キロ先の、対岸の山々が見えています。



●明日は、この前方の山のピークの、すこし左あたり、高度約11度で、コロナが輝く予定です。山の上空に広がる雲が、気になります。「あしたは、じゃまをするなよ！」と心の中で叫んだ瞬間でした。



●この日は、ロングイェールビーンの町の、散策にも行きました。スーパーマーケットや、博物館などにも行き、町でただ一つ、日本人従業員の働いている、寿司屋で昼食です。



●日本で出したら客が怒りそうな寿司でしたが、人気はあるとのことでした。確かに、サーモンは脂がのっていて、おいしかったです。



●これは、世界最北のスバルバル教会です。



●極地ならではの、24時間用の、日時計です。



●ロングイェールビーンの町は、人口1000人を超える町の中では、世界最北の町です。ホテルもありますが、フィヨルドに流れ込む、氷の流れに削られてできた、高さ800m～1000m級の台地に、その南側を部分的にさえぎられて、ここで日食を観測するには、慎重に場所を選ぶ必要があります。



●キャンプ2日目の夕食も、湯気がもうもうと立ち上るテントの中で、和気あいあいと焼き飯と温かいスープ。楽しい食事に、日食談義も、飛び交います。



●この日の晩は、非常に風が強く、テントのバタつく音で、何度か目が覚めました。夜中、トイレに起きると、小屋の管理の方が2人、犬を連れてテントの周囲を見回ってくれていました。



●いよいよ本番の日。急いで朝食を済ませて、8時にはキャンプサイトを出て、徒歩で観測場所へ向かい、車で運んだ機材の設置を、開始しました。このころになると、朝、空一面に広がっていたうす雲は時折吹く風に、北へ北へと追いやられていきました。



●どこかの取材でしょうか。重そうな機材を担いで我々を撮影している人が、おりました。



●冷たい手をこすりながら機材の設置が進みます。凍える手に、どうしても動作はゆっくり、しかし、心だけは、はやります。



●この時点で外気温は -15.3度でした。メンバーの 岡橋さんのセンサーです。



●すべての雲を我々の後方に追いやってくれた風は、やがて静かになりました。そして、…… 願ってもない素晴らしい青空が 我々の前方に広がりました。



●そして、前日に確認した、あの山の上低く、太陽がかけ始めました。
「かけ始めてますよー」の声に、シャッター音が忙しくなります。



●そして、なんと、なんと、第一接触30分過ぎ、又、幻日が現れたのです。昨日と同じ太陽の左22度の位置に、昨日よりは薄いですが、幻日が見えました。それまで静かだった観測隊に一齐に歓声が上がりました。



●そして、食が進み、いよいよ、「フィルターを外してください」につづいて、「ダイヤモンドリングの撮影を始めてください」の声。



「ウヲアー」と言う押し殺したような歓声！「太陽が低いから大きく見えるねー」という落ち着いた声も聞こえます。



●氷原一帯は、闇に包まれてゆきます。



●興奮のうちに、闇も移動してゆき、2分間の皆既時間もあっという間に過ぎてゆきます。



●緊張感張り詰める、観測隊。もうすでに、フィヨルドを挟んだ、対岸の山々には、光が当たっているのでしょうか。



●そして再び、ダイヤモンドリングが輝きます。



●まぶしさを増す太陽から思わず目をそらすと、氷原には、光と影が戻っています。



●思わず口をついて出た言葉は「コロナ！でっか かったナー」です。



●早くも、乾杯の準備をする、道祖神の、佐藤リーダーです。



●第3接触の十数分後、気温は-18.2度まで下がりました。
そして、そのすべての過程を、一片の雲にも邪魔されることなく、素晴らしい皆既日食は、あっという間に終わりました。



●この日の遠征隊は、観測成功の余韻に浸っている暇は無く、機材の撤収を済ませると、テントに戻り、記念写真を撮ります。日食の為に、この時期、特別にオープンした、このキャンプ場には、我々以外にも、50名ほどの人々が、単独、又は数人程度のグループで、キャンプをしておりました。しかし、日食時、その方々は、どこで観測したのか、写真でもお分かりの様に、我々は、広い氷の原っぱを独占状態でした。



●さらに、引き続き、キャンプ場の撤収を、急ぎます。



●そして、その日の飛行機で、オスロに戻るために、又徒歩で飛行場に、向かいます。



●その日の晩はオスロ空港近くのホテルで宿泊。ほっとした一晩を過ごしました。



●翌日は、オスロからコペンハーゲンに移動し、運河クルーズツアーなどで、コペンハーゲン市内観光を行いました。あいにく小雨模様でしたが、観光後、ホテル近くのレストランで、待ちに待った打ち上げです。皆、おなか一杯、食べ、飲み、語りました。



●翌日午前中、欧州最古のコペンハーゲン天文台を見学。午後のスカンジナビア航空で、コペンハーゲンを出発。成田への帰途につきました。



- 以上で報告を終わります。御清聴 誠にありがとうございました。